

生活環境課の取り組み

燕市の概要

燕市は新潟県のほぼ中央に位置し、北陸自動車道と上越新幹線の二大高速交通機関の接点を持ち、さらに国道116号と国道289号・JR越後線とJR弥彦線が、それぞれ交差する交通の要衝となっています。

市内には、信濃川や大河津分水路をはじめ、中ノ口川、大通川、西川など多くの河川や、東に越後連山、西に佐渡弥彦米山国定公園「弥彦山」「国上山」など、美しい自然環境に囲まれ、名僧「良寛」が30年間暮らした、五合庵・乙子神社草庵や越後最古の名刹・国上寺などの史跡が数多く残っています。

年	気温（℃）			降水量（mm）	
	平均	最高	最低		
				年間降雨量	日最大
R4	14.3	38.8	-3.1	1953.0	107.5
R3	14.2	39.1	-5.9	2261.0	88.0
R2	14.6	40.4	-3.8	2270.0	94.0
R元	14.4	40.0	-2.6	1863.0	96.0
H30	14.1	40.4	-8.4	1789.5	50.0

年度	人口（人）			世帯数
	男性	女性	合計	
R4	37,671	39,350	77,021	30,826
R3	37,968	39,719	78,687	30,449
R2	40,141	38,198	78,339	30,223
R元	38,533	40,400	78,933	29,894
H30	38,778	40,604	79,382	29,540

カンカンBOOK事業

市内事業所から飲用のアルミ缶・スチール缶を寄附していただき、その売却益で保育園やこども園の絵本などを購入する事業です。

項目	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年
協力事業所数	16	20	21	25	30
売却量	3,660kg	3,060kg	2,500kg	2,270kg	2,620kg
売却益	335,690円	251,402円	189,311円	321,498円	462,106円
絵本購入数	312	296	199	256	356
贈呈施設数	20	19	17	17	16

●福服BOOKのぼり旗



●贈呈図書ラベル



福服BOOK事業

市民より着なくなった洋服等を寄附していただき、その売却益で保育園やこども園の絵本などを購入する事業です。

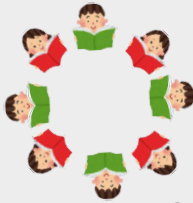
新型コロナウイルス感染症の影響により休止していた福服BOOK事業は、令和5年1月4日より回収を再開しました。

項目	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年
回収場所	市役所 駐車場	市役所 駐車場	市役所 駐車場	市役所 駐車場	市役所 駐車場
回収日	毎日	毎日	毎日	毎日	年間を通じて 休止
回収時間	9:00～ 17:00	9:00～ 17:00	9:00～ 17:00	9:00～ 17:00	休止
拠点回収	6回	4回	中止	中止	中止
回収量	67,540kg	106,465kg	44,825kg ※1	36,830kg ※2	0kg※3
売却益	67,540円	106,465円	44,825円 ※1	36,830円 ※2	0円※3



贈呈式の様子（令和4年度）

新型コロナウイルス感染症の影響による休止期間
※1 令和2年5月1日～12月31日の8カ月間
※2 令和3年4月1日～12月31日の9か月間
※3 令和4年1月1日～12月31日の12か月間



トリクロロエチレンの排出抑制にむけた取り組み

◆背景

県央地区は全国的に見ても金属加工業等が多く集積しており、金属製品に残った研磨剤の除去や脱脂洗浄にトリクロロエチレンが広く用いられています。全国のトリクロロエチレン使用量のうち約10%を燕市内の事業所が占めている一方で、使用事業所では適切な取扱いや危険性についての認識が不足している状態となっています。

◆トリクロロエチレンとは

無色透明の液体でクロロホルムに似た臭いを有する。

用途としては脱脂力が強いため、半導体産業での洗浄剤やクリーニング剤と使用されているが、発癌性が指摘されています。

◆環境基準とは

トリクロロエチレンは、法律に基づいて環境基準が定められており、1年間の平均が $130\mu\text{g}$ /立方メートル以下と定められています。

新潟県では毎月市内において常時監視1地点の他に、重点監視3地点でモニタリング調査を実施しています。

◆燕市の排出抑制に向けた取組（燕市商工振興課）

環境負荷低減支援事業

指定機関が実施する資格認定講習等の受講料の一部を補助します。

専門家派遣支援事業

公益財団法人にいがた産業創造機構が実施する生産工程の環境対策に資する専門家派遣事業を受ける際に要する負担金の一部を補助します。

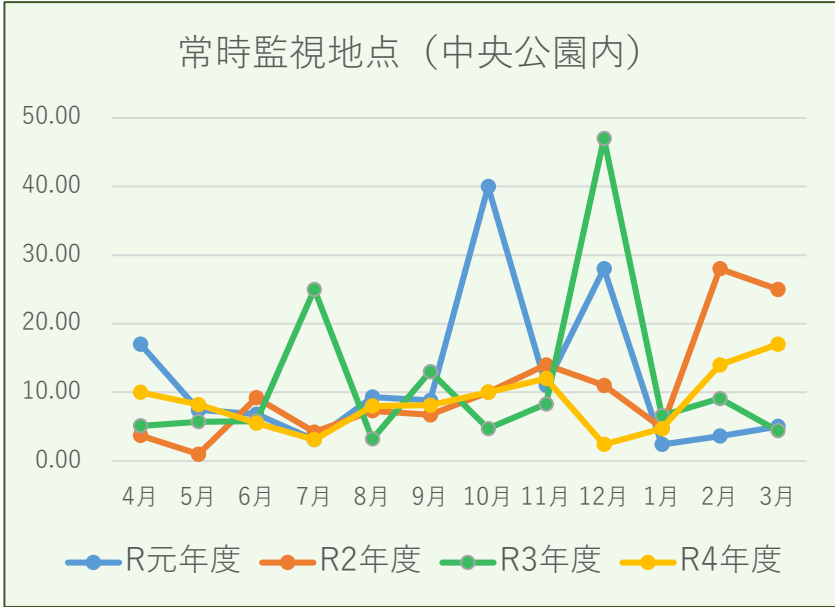
設備改善資金支援事業

専門家の診断に基づいて実施する環境負荷低減のための設備投資に要する費用の一部を補助します。

◆これまでの取組

- 排出抑制対策や県央地域事業者の対策例などを取りまとめた【トリクロロエチレン排出抑制に向けた自主的取り組みガイドライン】の策定
- 排出抑制対策などをまとめた【排出抑制に関するリーフレット】の配布
- トリクロロエチレンを取り巻く現状と排出抑制技術に関する知識の普及を図る【排出抑制説明会】の定期的開催
- 【燕市トリクロロエチレン排出抑制検討会】の設置
事務局：燕市商工振興課 燕市生活環境課
委員：業界団体 販売事業所 検査機関
オブザーバー：新潟県県民生活・環境対策部環境対策課
三条地域振興局環境センター

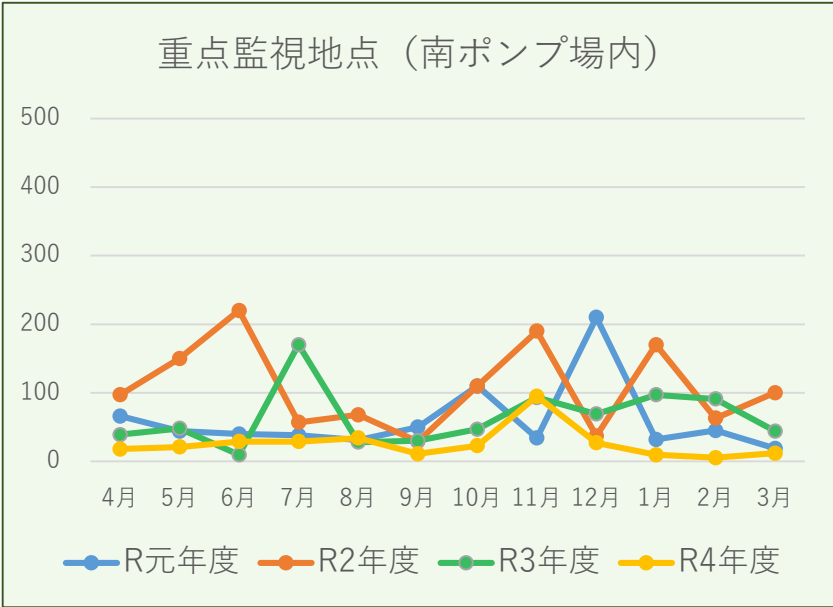
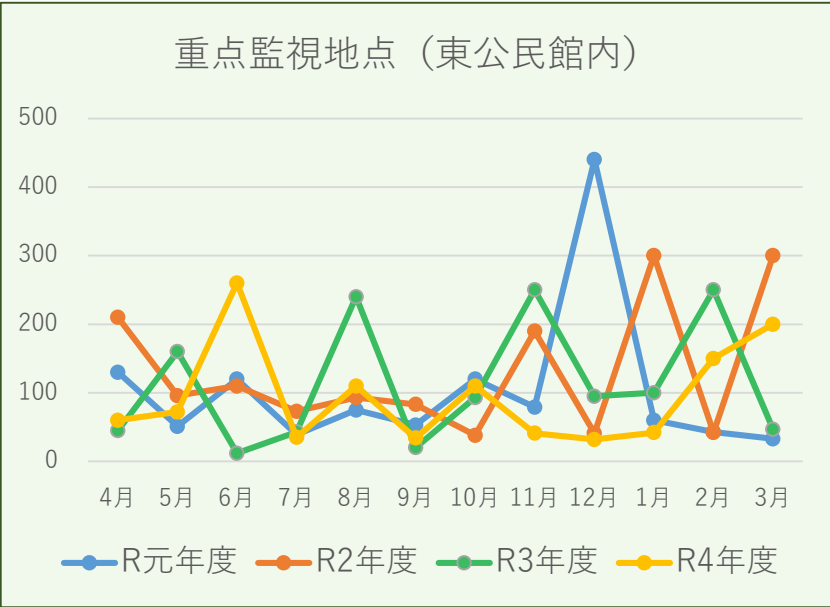
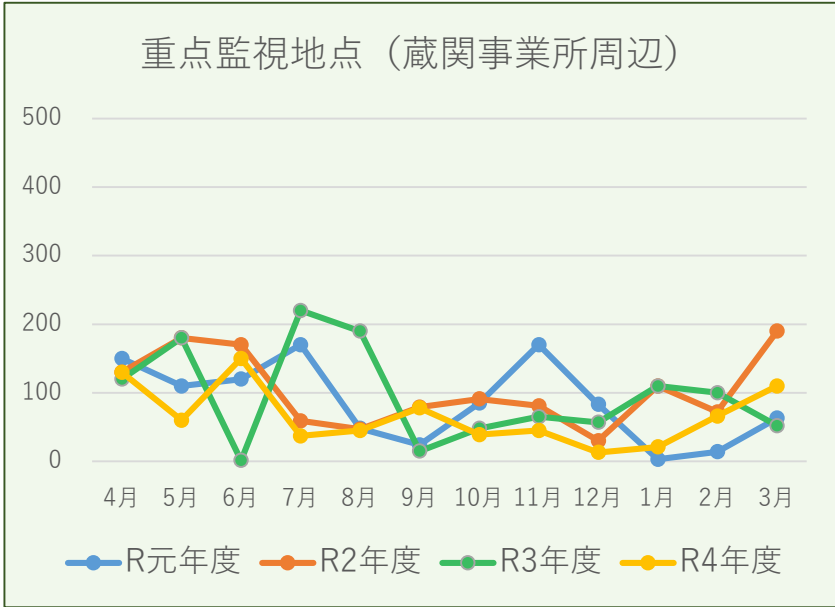
トリクロロエチレンの測定結果の推移



有害大気汚染物質モニタリング調査

		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
常時監視地点 (中央公園内)		12	10	11	8.5
重点監視地点	蔵関事業所 周辺	86	100	97	66
	東公民館内	100	130	110	96
	南ポンプ場 内	59	110	64	26

※トリクロロエチレン 環境基準値:年平均値＝130以下(年＝1,560) 単位:μg/m3



燕市内における公害防止活動

毎月1回、燕地区の南町排水路の2地点(南公民館脇、少年野球場脇)で水質の測定を行いました。
また、騒音常時監視として、環境騒音・自動車騒音測定を3地点と高速道路騒音測定を6地点で行いました。

◆騒音調査状況

①環境騒音、自動車騒音測定(3地点)

調査地点	基準類型	調査月日
吉田西太田地内	B	11/10～11/11
大曲地内	B	12/21～12/22
砂子塚地内	B	12/26～12/27

②高速道路騒音測定(6地点)

調査地点	基準類型	調査月日	調査地点	基準類型	調査月日
井土巻地内	C	7/26～7/27	八王寺地内	B近接	7/26～7/27
又新地内	B近接	7/26～7/27	三王淵地内	B	8/9～8/10
八王寺地内	B	8/22～8/23	関崎地内	B近接	8/29～8/30

③測定方法ならびに測定結果

測定回数		年1回、24時間測定
測定場所		環境騒音3地点、高速騒音6地点 (道路に面する地域)
環境基準 類型B.C	昼	65デシベル(6時～22時)
	夜	60デシベル(22時～6時)
環境基準 類型B近接	昼	70デシベル(6時～22時)
	夜	65デシベル(22時～6時)
測定結果		全地点において環境基準を超えなかった

◆南町排水路水質検査状況

検査項目	基準値 (PPM)	測定結果
ジクロロメタン	0.02	環境基準 オーバーなし
1,1-ジクロロエチレン	0.10	環境基準 オーバーなし
シス-1,2-ジクロロエチレン	0.04	環境基準 オーバーなし
1,1,1-トリクロロエタン	1.00	環境基準 オーバーなし
トリクロロエチレン	0.01	R5.2月測定時基準値オーバー (0.067) ※1
テトラクロロエチレン	0.01	環境基準 オーバーなし

※1 翌3月測定時は基準値未満(測定値0.001未満)に戻る

◆特定事業所騒音・振動立入実態調査

(燕市公害防止事業協同組合と連携して実施)

調査日	対象工場	騒音調査数	振動調査数
10月27日	18社	18社	18社



災害廃棄物処理計画

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、膨大な災害廃棄物の発生に加え、津波による処理の困難性が加わり、廃棄物の処理や生活基盤の再建に多大な影響を及ぼしました。また、近年、自然災害が多発・激甚化しており、全国各地で大規模地震や集中豪雨により膨大な災害廃棄物が発生している状況であり、本市においても広い地域が強い揺れに襲われたり、浸水することが予測されます。

このような災害で発生する災害廃棄物は、種々の廃棄物が混合した処理しづらい性状のものが一時に大量に発生すること、人の健康又は生活環境に係る被害を生じるおそれがあること、仮置場における火災発生のおそれがあること等とともに、感染症発生等の二次被害を防止する必要があります。生活環境の保全及び公衆衛生上の支障を防止し、災害廃棄物を適正かつ円滑・迅速に処理しなければならないことから災害廃棄物処理計画を令和4年3月に策定しました。

災害発生時には、本計画に基づき、被災した家財を含む災害廃棄物の速やかな撤去、処理・処分を行うための仮置場を設置していきます。

【平成28年熊本地震の例】

片付けごみが道路まではみ出しており、交通の障害になっています。



【仮置場の例】

(場所：福岡県朝倉市甘木仮置場：約3,000㎡)



(R4.8月新潟県北豪雨災害時の仮置場の様子)



燕市食品ロス削減推進計画

令和4年3月に「燕市食品ロス削減推進計画（令和4年～令和12年）」を策定し、令和4年度より食品ロス削減目標の達成に向け、市民向け出前講座の実施など普及啓発活動を行っています。

◆食品ロス削減目標

国の食品ロス削減目標

- ①**2030年度**（令和12年度）**までに**、
- ②**食品ロス量を2000年度比で半減**させ、
 - ・家庭系：2000年度（平成12年度）433万トン→216万トン
- ③**食品ロス問題を認知して削減に取り組む消費者の割合を80%**とする。
 - ・2018年度（平成30年度）：71%

燕市の食品ロス削減目標

- ①**2030年度**（令和12年度）**までに**、
- ②**食品ロス量を1,130トン以下**にし、
 - ・家庭系：2018年度（平成30年度）1,444トン→1,130トン（▲21.7%）
- ③**食品ロス問題を認知して削減に取り組む市民の割合を90%**とする。
 - ・2020年度（令和2年度）まちづくり市民アンケート：87%

◆出前講座開催実績

開催場所	開催日	参加者数
分水公民館	8月9日	約20名
きららにこにこ保育園	9月27日	約20名
燕市老人集会センター	10月21日	約40名

燕市食品ロス削減推進計画

令和4年度～令和12年度
（2022年度）（2030年度）

燕市の食品ロス削減スローガン

食べ物に、もったいないを、もういちど
～ おいしく、適量を、残さず、食べきる ～
一人ひとりが「もったいない」を意識して行動しましょう

令和4年3月 策定



新潟県燕市

燕市ゼロカーボンシティ宣言

2022年6月14日、燕市は『2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロ』を目指すゼロカーボンシティを宣言しました。今後、脱炭素社会の実現と環境負荷軽減のため、様々な取り組みを進めて行くこととしています。

燕市ゼロカーボンシティ宣言

近年、世界各地で猛暑や豪雨など、地球温暖化が原因と考えられる異常気象による災害が多発しており、このままでは人々の生命や財産、生態系に甚大な影響が及ぶことが懸念されることから、地球温暖化対策の推進が求められています。

2015年度に合意されたパリ協定では、「産業革命前からの平均気温上昇の幅を2度未満とし、1.5度に抑えるよう努力する」との目標が国際的に広く共有され、この目標達成に向け、我が国も2020年10月に「2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする」ことを宣言しました。

燕市は、日本を代表する金属洋食器及び金属ハウスウェア製品などの主要産地であるとともに、日本さくらの名所100選の“大河津分水桜並木”や霊峰弥彦山に連なる国上山、名僧“良寛”が暮らした「五合庵」や幕末から明治にかけて有能な人材を数多く輩出した日本有数の私塾「長善館」ゆかりの地として、産業・自然・歴史が調和を図りながら発展してきたまちです。私たちはこのかけがえのないふるさとを後世に残していかなければなりません。

本年は、燕市の発展を支え続けてきた大河津分水が通水100周年を迎えます。市は、次の100年に向けて新たな成長の礎となるよう、脱炭素社会の実現と環境負荷の軽減を推進するための様々な事業を進めていくとともに、「2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロ」を目指して、その実現に向けて取り組みを着実に進めて行くことを宣言します。

令和4（2022）年6月14日

燕市長

鈴木カ



燕市は「2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロ」を目指します

2022年6月14日、市議会定例会において、市長が「2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す」ことを表明しました。

また、これにあわせ「ゼロカーボンシティ宣言」を行いました。

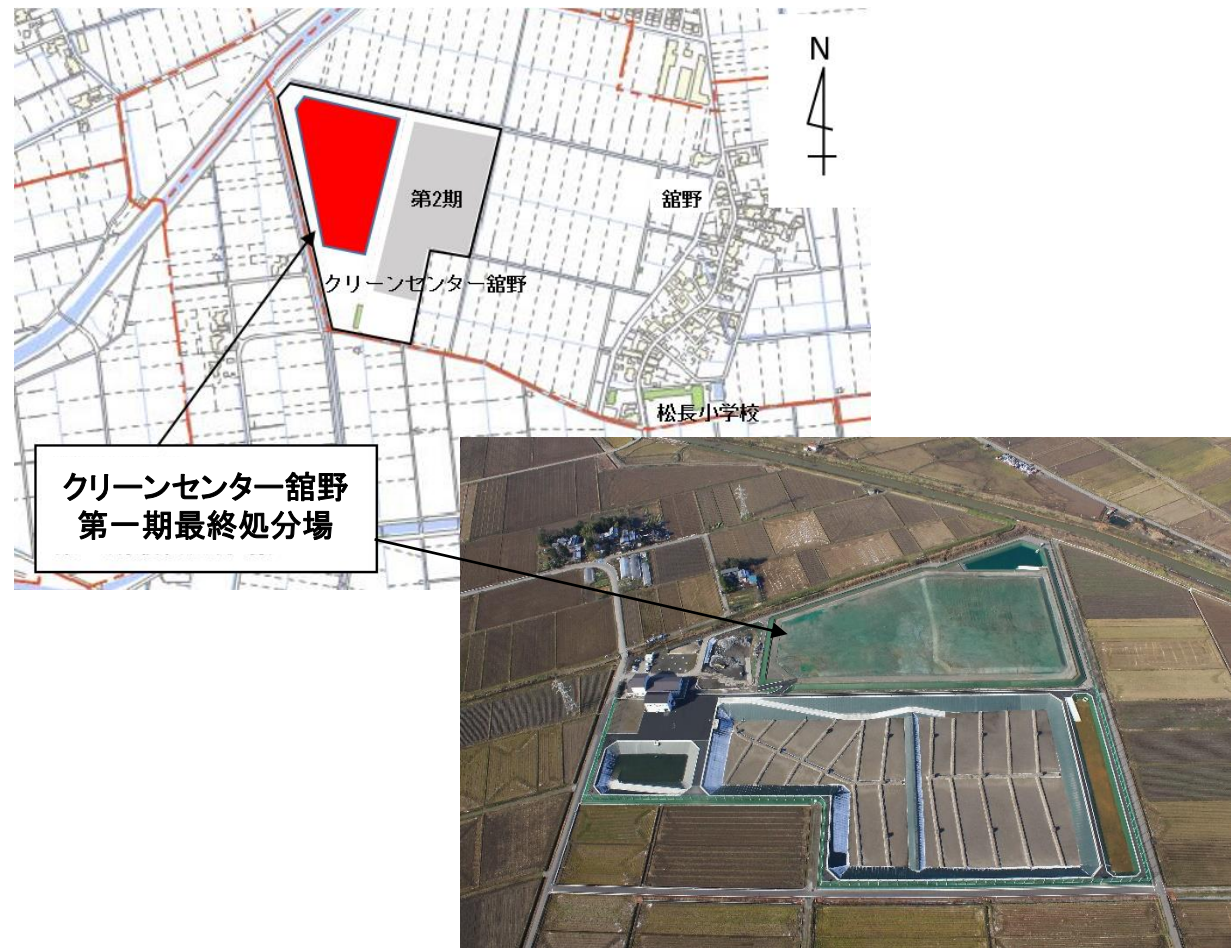


◆メガソーラー発電所建設事業

最終処分場跡地の再利用と災害時における電力の安定供給や市民の環境意識の高揚を図ることを目的に燕市内2カ所目となるメガソーラー発電所を誘致しました。現在、令和5年9月の発電開始に向け建設準備を進めています。

◆施設の概要

- 誘致施設名
クリーンセンター館野第1期最終処分場
- 場所
燕市館野字西109番地 他
- 発電事業者
合同会社 スワローXFF
- 敷地面積
32,300㎡
- 予定最大出力
2,304KW
- 予定太陽電池モジュール
540W×4,268枚
- 発電電力の利用先
再エネ電力の利用を希望する市内企業等に電力供給



クリーンアップ選手権

「I ♥ Tsubame・Clean up in 燕」（日本一きれいで輝く街を目指して！）の活動事業の一つとして、ごみ拾いに競技性を持たせ楽しく参加していただきながら、地域の環境やごみ問題に対する意識を高めること。また、まち歩きを通じて、風景などを楽しみながら地域の良さを新発見、再発見することを目的として開催している。

年次	参加数	
	チーム数	人数
R4	新型コロナウイルス感染拡大により中止	
R3	新型コロナウイルス感染拡大により中止	
R2	新型コロナウイルス感染拡大により中止	
R元	47	174
H30	51	188

※R5年度は10/8開催予定

クリーンデー燕

クリーンデー燕は、地域の市民と子供たち、また、ボランティアの人々や団体が市内全域のごみ拾いや草刈りを一緒に行うことで交流するとともに、清潔で美しいまち燕の実現と環境美化意識の高揚を図ろうとするものです。

年次	参加数			
	春		秋	
	団体数	人数	団体数	人数
R5	149	5609	10月に実施予定	
R4	138	5611	114	3757
R3	130	4990	124	4392
R2	135	626	133	4415
R元	143	6121	140	4955
H30	152	6633	142	5181

『Let's Try Eco啓発ポスターコンクール』

このコンクールは、越後吉田ライオンズクラブ・燕ライオンズクラブと共催で生活に身近な、みんなで取り組める環境保全活動を一層推進していくため、市内の小学4年生を対象にポスターを募集するもので、「ゴミの減量」「リサイクル」「省エネ」「環境破壊や汚染の防止」などをテーマにしています。
令和4年度は市内15校から555名の児童から応募をいただきました。

【市長賞】



【表彰式の様子】



自治会への補助金

薬剤購入補助金

一自治会につき、同一年度内において50万円を上限に、自治会で実施する衛生害虫駆除事業にかかる薬剤の購入費を補助します。

年次	実績	
	申請数	金額
R4	117	7,408,000
R3	119	7,571,000
R2	123	7,662,000
R元	127	7,709,000
H30	140	7,883,000

ごみステーション設置事業補助金

ごみ収集場の衛生及び美観の維持向上並びに収集業務の能率化を図るため、自治会が行うごみステーション設置に要する経費の一部に対して補助します。

年次	実績	
	設置基数	金額
R4	45	2,150,000
R3	45	2,137,000
R2	27	1,225,000
R元	28	1,272,000
H30	16	681,000

合併処理浄化槽転換促進補助事業

人口減少や高齢化などの社会情勢や厳しい財政事情等により、污水处理施設の整備を取り巻く情勢が大きく変化したことを受け、燕市においても、集合処理区域として下水道整備を実施する区域及び個別処理区域として合併処理浄化槽で整備する区域を明確に分類するとともに、早期の污水处理施設の概成を目指す「燕市污水处理施設整備構想」を策定しました。

これを受けて、個別処理区域において、単独処理浄化槽や汲み取り式トイレから合併処理浄化槽に早期の転換を促すため、令和元年度から設置工事費等の一部を補助する制度の創設しました。

また、国から、令和元年度予算において、新たに宅内配管工事費も助成する方針が示されたことから、本市としても、国の制度改正に合わせて合併処理浄化槽への転換促進補助制度を創設しました。

◆補助対象者

個別処理区域において、住宅で使用している単独処理浄化槽またはし尿汲み取り便槽を合併処理

浄化槽（環境配慮型浄化槽※）に設置換えする方。

※ 消費電力基準、環境性能等の環境省の定める要件を満たす浄化槽

◆補助金のイメージ（7人槽の場合）

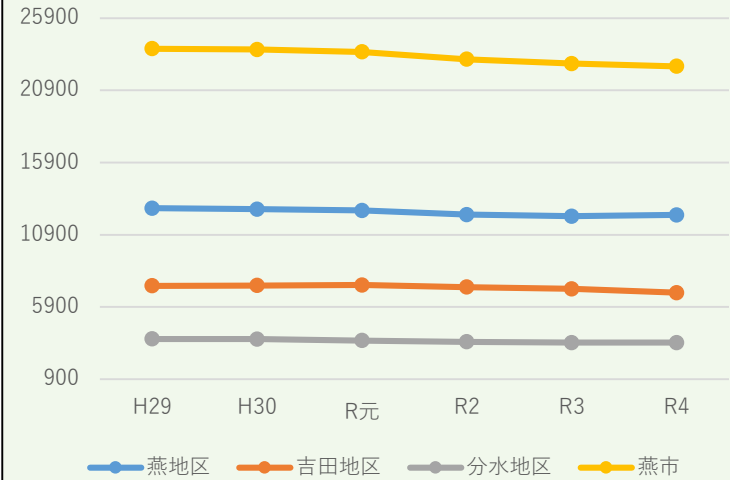
補助対象費用			+	単独浄化槽撤去費用		+	単独転換に伴う 宅内配管工事費用	
個人負担	市助成 1/2	国助成 1/2		市助成 1/2	国助成 1/2		市助成 1/2	国助成 1/2
限度額 474,000円				限度額 120,000円			限度額 300,000円	

◆燕市合併処理浄化槽転換促進補助事業実績

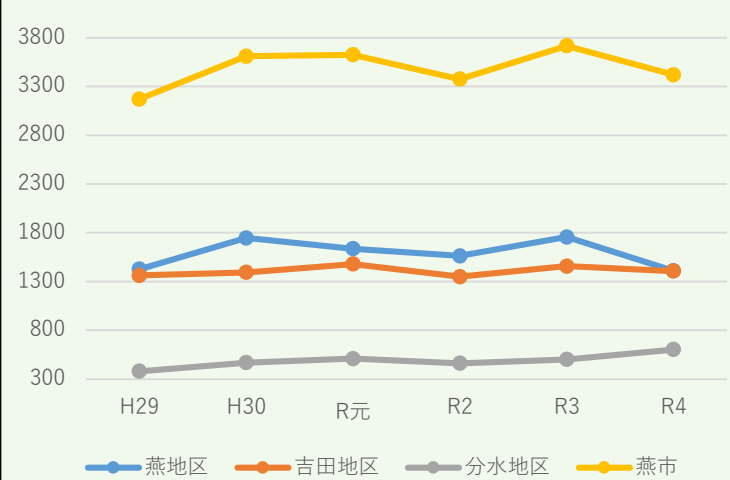
年次	補助件数		補助金額
	単独入替	汲み取り入替	
R4	39件	1件	33,009,000円
R3	35件	7件	31,001,000円
R2	24件	0件	19,407,000円

ごみの収集量の推移①

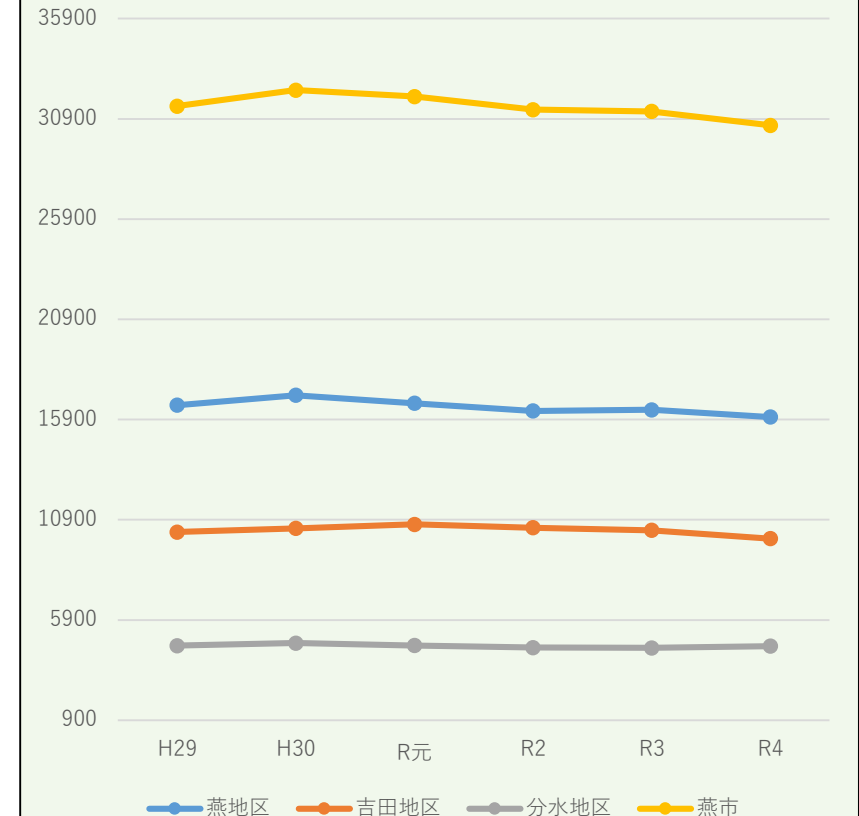
年間の可燃ごみの総量



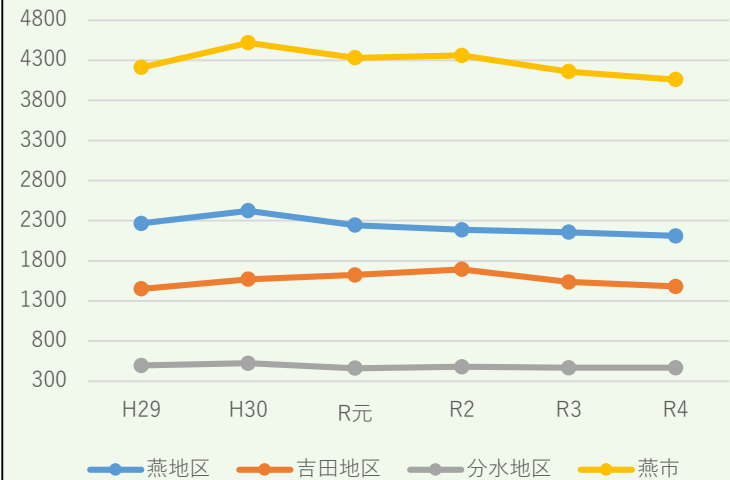
年間の不燃ごみの総量



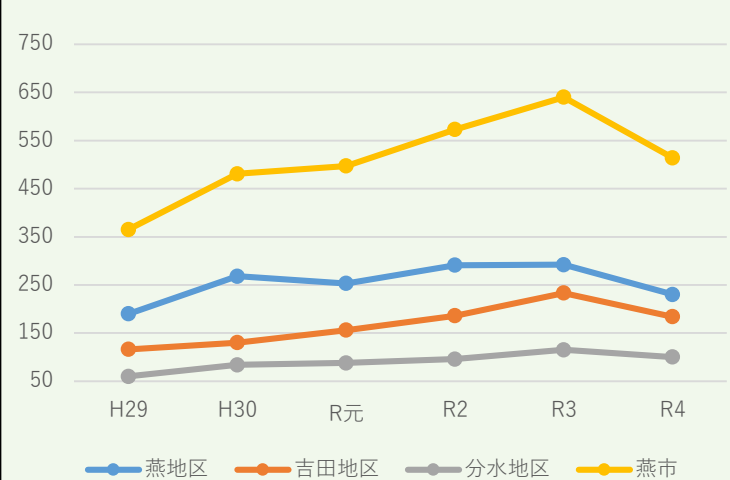
年間のごみの総量



年間の資源ごみの総量



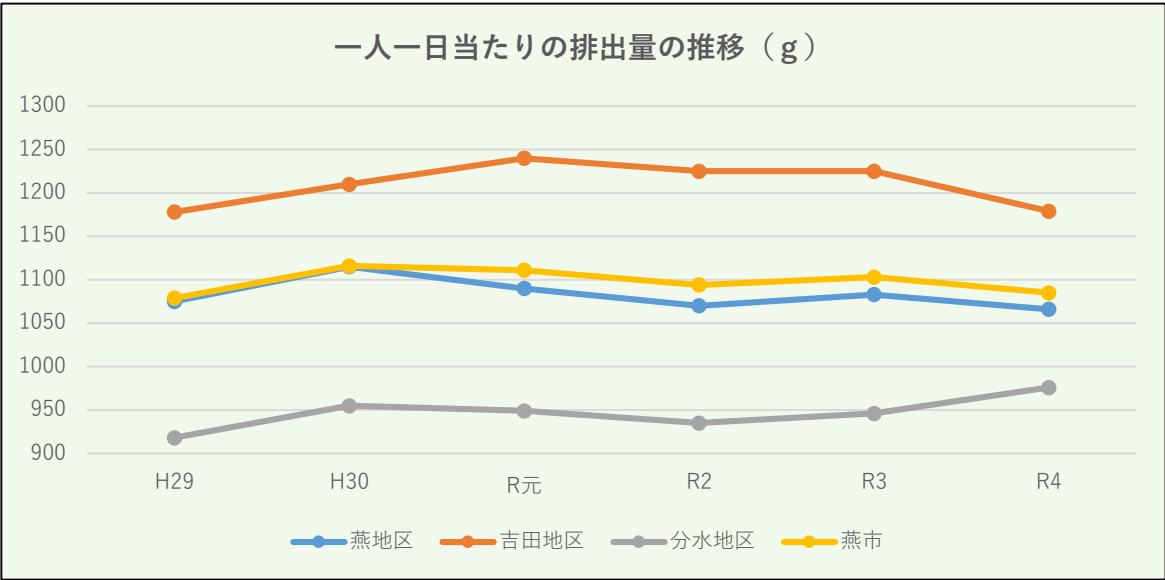
年間の粗大ごみの総量



ごみの収集量の推移②

年次	燕地区						吉田地区						分水地区						燕市					
	可燃(t)	不燃(t)	資源(t)	粗大(t)	合計(t)	一人一日当たりの排出量(g)	可燃(t)	不燃(t)	資源(t)	粗大(t)	合計(t)	一人一日当たりの排出量(g)	可燃(t)	不燃(t)	資源(t)	粗大(t)	合計(t)	一人一日当たりの排出量(g)	可燃(t)	不燃(t)	資源(t)	粗大(t)	合計(t)	一人一日当たりの排出量(g)
R4	12,274	1,410	2,112	230	16,026	1,066	6,888	1,407	1,480	184	9,959	1,179	3,424	603	468	100	4,595	976	22,568	3,420	4,060	514	30,562	1,085
R3	12,184	1,757	2,156	292	16,389	1,083	7,145	1,458	1,537	233	10,373	1,225	3,424	501	467	115	4,507	946	22,753	3,716	4,160	640	31,269	1,103
R2	12,291	1,563	2,187	291	16,332	1,070	7,274	1,349	1,695	186	10,504	1,225	3,484	463	480	96	4,523	935	23,050	3,375	4,362	573	31,360	1,094
R元	12,577	1,636	2,245	253	16,711	1,090	7,413	1,479	1,625	156	10,673	1,240	3,571	510	462	88	4,631	949	23,563	3,625	4,331	497	32,016	1,111
H30	12,673	1,747	2,424	268	17,112	1,115	7,381	1,394	1,571	130	10,476	1,210	3,672	469	524	84	4,749	955	23,726	3,610	4,519	481	32,336	1,116

※R2はうるう年



◆人口の推移 (人)

	燕地区	吉田地区	分水地区	総人口
R4 (2023.3.31)	41,079	23,083	12,859	77,021
R3 (2022.3.31)	41,437	23,197	13,053	77,687
R 2 (2021.3.31)	41,698	23,428	13,213	78,339
R元 (2020.3.31)	41,990	23,572	13,371	78,933
H30 (2019.3.31)	42,038	23,726	13,618	79,382

指定ごみ袋レジ袋化

◆家庭用ごみ指定袋のレジ袋化

買い物時にマイバックを忘れた場合など、通常のレジ袋を購入する代わりに家庭用指定ごみ袋を購入することで、レジ袋として利用した後に、家庭でごみ袋として使用いただくことでプラスチックごみの削減に繋げる取り組みです。新潟県内自治体で初の取り組みとして協力店舗が拡大しています。

イメージ



販売価格

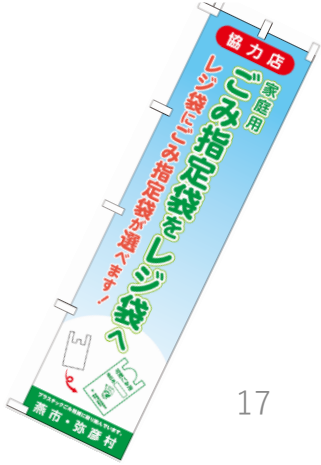
サイズ	容量	値段（税込）	【参考】10枚入り価格（税込）
極小	10ℓ	10円	100円
小	20ℓ	20円	200円

協力店舗（R5.8.22現在）計38店舗

チャレンジャー燕三条店	有限会社 まるしん
イオン県央店	有限会社 丸山屋
ホームセンタームサシ三条店	食品にしくら
良食生活館分水パコ店	有限会社 カンダストアー
ウオエイ小中川店	エブリーデリス
セブン-イレブン（燕市、弥彦村の全店舗）	ローソン（燕市一部店舗）
ドラッグトップス（燕市全店舗）	ツルハドラッグ（燕市全店舗）



店舗の様子

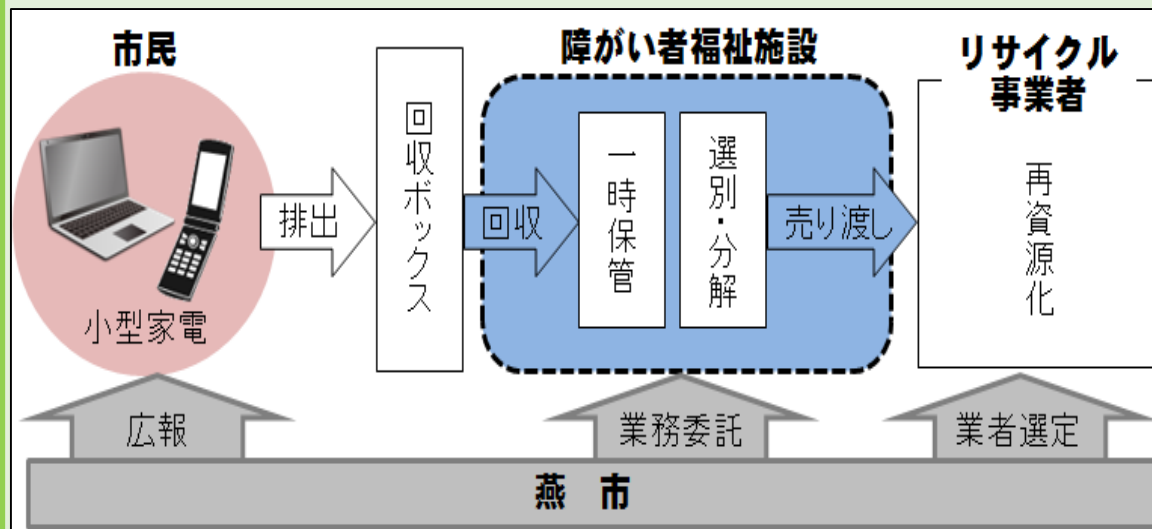


小型家電リサイクル業務

小型家電製品に含まれる有用金属（金・銀・銅など）の再資源化と不燃ごみの減量化を図るため、使用済小型家電製品の回収を行っています。

小型家電の回収・分解は、燕市の障がい者福祉施設に委託し、回収・処理を行っています。

回収・分解からリサイクル事業者への売却までを障がい者福祉施設が行い、障がい者の就労支援に繋がります。



ペットボトル分別業務

燕・弥彦総合事務組合のストックヤード（一時保管所）内において、資源ごみとして回収されたペットボトルの中から、キャップや異物などを取り除き、容器包装リサイクル協会が定める引取品質ガイドライン（Aランク）に適合させて引渡し品質の向上を図るとともに、障がい者の就労につながる支援として障がい者施設等に業務を委託しています。



狂犬病予防集合注射

狂犬病とは

狂犬病は犬だけの病気ではなく、人を含むすべての哺乳類に感染し、発病すると治療法はなく、ほぼ100%死に至る大変恐ろしい病気です。日本では1956年以降の発症は確認されていませんが、世界では現在も年間59,000人の人が発症しています。

狂犬病予防注射

生後90日を経過した犬を飼育する人は、生涯1回の登録と年度ごとに1回の狂犬病予防注射の接種が法律で義務づけられています。（狂犬病予防法）

狂犬病予防集合注射

燕市では、毎年4月に市内15か所で狂犬病予防集合注射を行っています。
令和4年度は1,251頭の犬に予防注射を接種しました。

年度	登録数	接種済数	接種率
R4	2,968	2,795	94.2
R3	3,061	2,681	87.6
R2	3,081	2,897	94.0
R元	3,298	3,006	91.1
H30	3,392	3,102	91.5